

NPO法人熊本まちなみトラスト

(KMT)

の活動実績と未来への目標

熊本まちなみトラストは、「記憶の継承」を基本理念として
1997年に設立し、熊本市の近代化遺産、新町古町の町屋の保存
活用に取り組んできました。

平成28年熊本地震ではそれらの文化遺産が壊滅的な打撃を受
けました。そこで、震災からの創造的復興を推進するために
2017年にNPO法人の認証を受けました。

この冊子は、震災までの19年間と、震災後の3年間の活動を
振り返るとともに、未来に向けた活動目標を明らかにすることを
目的としています。ご高覧いただき私たちの活動にご賛同いただ
ければ幸いです。

目 次

1. 1997年設立後20年間の活動実績／P2
2. 2017年NPO法人設立後の活動実績／P8
3. 未来に向けた活動目標／P11

熊本まちなみトラストが取組んだ主要プロジェクト（NPO設立以前 1997-2016）

① 旧第一銀行社屋（現PSオレンジリ）

前身の古町研究会がかねてから見学会を開催するなど注目していた1919（大正8）年建造の旧第一銀行熊本支店社屋がマンション用地として買取られたことを知り、シンポジウムの開催、街頭署名等のキャンペーンを行いながら買い戻して活用する使い手を探す活動を10ヶ月続けた結果、優良な買取手が現れ保存・活用が実現した。この保存運動が契機となって熊本まちなみトラストが設立され、古町研究会は発展的に解消した。1997年のことであった。

同銀行支店社屋を買取った空調機器メーカーPS社は、同銀行建築を研究所兼ショールームとしてリノベーション。平成28年熊本地震では激しく被災したが、社屋が100歳を迎えた2019年、さらなる100年を見据えて復旧工事に着手することを宣言した。



ライトアップされたPSオレンジリを
坪井川にかかる明十橋から望む



復旧工事中の仮囲いに掲げられた看板（2019.2.23）

② 旧日本勧業銀行熊本支店 保存活動

左記第一銀行は、1971年に勧業銀行との合併で第一勧業銀行（現みずほ銀行）となり熊本支店は花畑町にある1933（昭和8）年建造の旧勧業社屋に機能移転した。その第一勧業銀行支店社屋の建替え計画が1998年に持ち上がった。旧第一銀行の時と同様シンポジウムや街頭署名のキャンペーンを建築士会やJIA建築家の会と共同で行った。花畑町という目立つ場所にあったために市民の関心も高まったが、残念ながら1999年夏に解体取り壊しとなった。

1998年6月には金融監督庁が発足しバブル経済後の不良債権処理が社会問題となっていた時期、地域の文化遺産としてかけがえのないものも、むしろ不良資産と見なされたことを本店（東京）へのヒアリングでは痛感した。



1999年取り壊し直前撮影

1933（昭和8）年6月28日の九州新聞では「熊本城を背景に偉容を誇る」という見出しで竣工の様子が伝えられている。



1999年9月8日解体工事現場

熊本まちなみトラストが取組んだ主要プロジェクト（NPO設立以前 1997-2016）

③ 後藤商店

11間の間口を持つ大正期の大商家は、後継者からの相談を受けた1999年から熊本まちなみトラストの支援プロジェクトの一つとなった。夏季限定でカフェとマルシェを開業して条件の合う借り主を探す活動や、市の景観形成建造物に指定された後に屋根と外壁、一部内装の改修を行った際にはアドバイスを行った。1919（大正8）年に建造されて以来続いていた金物店としての営業活動から後継者のピアノのレッスン場やスタジオとしての事業内容にあわせた改修であった（後藤商店という法人は存続していた）。

平成28年熊本地震で激しく被災したが、文化遺産としての価値を保存した復旧工事に2019年3月着手した。ところが、同年11月16日、原因不明の火出で、改修工事半ばで完全焼失した。



2005年改修後の後藤商店



2019年11月16日夜火災発生、全焼

④ 熊本紡績（月星化成熊本工場）

1894（明治27）年に赤煉瓦の近代的工場として竣工した熊本紡績株式工場の工場は、戦後月星化成株式の靴製造工場として使い続けられたため、市民には月星化成の工場として親しまれていた。その工場敷地が公共用地として売却されることになり2002年に工場は閉鎖された。熊本まちなみトラストは、実測調査や見学会などのキャンペーンを行いながら、明治期の工場建築の一部を保存しながら新たな公共施設へと再利用する案を作成し関係機関に提案した。県・市の協力も得て一部保存の可能性が高まったが、結果的に敷地内の建造物は全部取り壊して新施設を建設することに決定された。

そこで、一部でも移転保存の引き取り手を捜すことの方針転換したところ、熊本学園大学が電気室を引き取り産業資料館として活用されることになった。



2002年3月月星化成工場見学会

敷地内にあった診療所も個人が引きとられフラワーデザイン教室等に再利用されている。右の熊本学園大学産業資料館もともに国の登録有形文化財となり経済産業省の近代化産業遺産にも選定された。



2003年12月電気室の移転工事竣工披露

⑤ 河原町プロジェクト

戦後の闇市の火災の後に1958（昭和33）年に建設された河原町繊維問屋街が長い年月を経てシャッター街と化していたところへ熊本まちなみトラストメンバーとその仲間の呼びかけに応じて、出店したいという若者が現れた。熊本まちなみトラストは「全国都市再生モデル調査2003年度／内閣府」の選定を受け、権利関係の調査、共用部分の改修、家主さん折衝をはじめとする入居者支援等の活動を行った。10店舗ほどの集積に達した段階で、熊本まちなみトラストは手を引いて出店者の自治的な運営に任せることになったが、その後、若きクリエイター達の集積は20店舗ほどに増え、九州におけるリノベーション事業の嚆矢として全国に知られるところとなった。



2001年12月 リノベーション以前



2004年6月 アートの日



2003年3月 1号店オープン



2005年5月 フリーマーケット

⑥ JR上熊本駅舎の活用保存

昭和2年建造のJR上熊本駅舎が鉄道高架事業にともない解体されることになり、熊本まちなみトラストは地元自治会、商店街、崇城大学と共同してまずは2003年6月29日駅舎の清掃とミニシンポからはじめ、同年11月の「草枕の駅コンサート」の日に「JR上熊本駅舎を活かす会」を発足させた。この会は2006年7月1日に市電の電停上屋として保存活用が達成したあとと今日まで活動を続け、JR上熊本新駅舎と駅前広場の設計ワークショップにも加わり、一定の成果をあげている。駅舎保存の過程では、2度ほど「不可能」の壁に突き当たったが、他分野の団体も巻き込み活動を拡大しながら突破し、最終的に市長（幸山市長／当時）の英断を得ることができた。



2006年7月1日 駅舎移築完成イベントのポスターとイベントの様子

⑦ ペロタクシーの運営支援

ペロタクシーのペロはドイツ語で自転車のことだが、後ろに客席があり電動アシストの付いた三輪自転車を世界統一の仕様でNPOが提供している。2005年の新町古町ワークショップに参加した熊本学園大学大学院生の2人が、このペロタクシーの運営を始めたいと語り始め、熊本まちなみトラストと地元世話役が応援団となった。大学院学生たちはNPOを立ち上げ運営にあたったが、ドライバーには他大学の学生や市民も大勢加わった。

熊本まちなみトラスト事務局のあるビルの1階駐車場に3台のペロタクシーを常駐し新町古町の歴史を語りながら案内する若者たちは、付近のクリニックへの通院者や観光客に大いに人気を博したが、経営面から厳しい状況に陥り2005年から2008年までの3年間で幕を閉じた。



2007年5月15日 出発式の記念撮影

地域の方たちの福祉の足となることを最優先させる、という目的から、NPOの名称は「ホスピタリティネットワーク」とした

⑧ 新町古町町屋活用

2011年の新幹線開業を前に、熊本駅と都心の間にある新町古町地区の活性化支援を熊本県、熊本市が相次いで打ち出し、熊本まちなみトラストも行政からの発注で「町屋調査」を実施。第1次調査は2007年11月3日、地域住民の方も加わり開始したが（下記写真）、これが新町古町の町屋活用支援のはじまりとなった。

2010年、2011年は「町屋体験の日」と銘付ったイベントで特定の町屋を使った大掃除や障子張りワークショップと交流会、町屋巡りを行った。このイベントで町屋を使いたいという人も現れ、空き店舗への誘致も実現した（新町モビカンポシェット、古町季節器）。



2007年11月3日 町屋調査WS

町屋体験の日

16	2012平成24年 6.24●会員総会（於 早川倉庫） 写真展と車座交流会：失われた遺産・甦る遺産・息づく遺産 11.23-26●熊本まちなみトラスト展（於 現代美術館）／現代美術館共催／くまもとアートポリス建築展2012協賛 12.24-31●第5回新町古町町屋ライトアップ／くまもとアートポリス建築展2012協賛	111220-120105 新町古町町屋ライトアップ（第4回） 120519 山の上団地見学会
17	2013平成25年 6.30●会員総会（於 P.S.オランジュリ） 富重清治氏に聞く：わが国の写真史黎明期を生きた富重利平とその写真をめぐって ★『熊本の近代化遺産』（松書房）★12月（上巻）・2014.	A：近代建築研究 B：町屋・武家屋敷研究 C：アーカイブ研究
18	2014平成26年 3.16-23熊本の近代化遺産写真展@P.S.オランジュリ 5.24●会員総会2014（於 西唐人町 西村邸）	4.06 上無田松尾神社（設計：木島安史）A 見 10.19 N.H.K旧放送所（熊本市清水町）A 11.29 長崎次郎書店 A
19	2015平成27年 150329★熊日出版文化賞受賞 5.16●会員総会2015（於 川尻 大正蔵）	1.10 熊本県伝統工芸館（けんちく寿）A 2.21 熊本県松橋収蔵庫 C 3.22 小川町まち歩き B 5.03 旧高月邸（宇土市）B 3.21 熊本文学・歴史館 B（庭園）
20	2016平成28年 ★4.14（前震）-16（本震）熊本地震★ 6.18●会員総会2016（於 西唐人町・西村邸） →復興事務所開設 →西村邸（季節家跡）に常駐 →161001	160730 日本イコモス国内委員会フォーラムin学園大 160809-11 復興ワークショップin清水本店 160829 延藤安弘氏講演会in早川倉庫 160922 文化財ドクター調査報告会in熊大百周年記念館 161015 全国街づくり会議in高岡で熊本地震報告 161101 ワールド・モニュメント財団（本部NY）in復興事務所 161210 日本イコモス総会で熊本地震・新町古町の被災状況報告 161228 都市計画学会九州支部で熊本地震・新町古町の被災状況報告
21	2017平成29年 170227 ワールド・モニュメント財団への支援申請 170326 NPO法人熊本まちなみトラスト設立総会 於 P.S.オランジュリ 170530 NPO認証 170720 WMFとの契約 170803 契約伝達式	170305 第7回けんちく寿「孤風院」 170612 「復興と癒しの幻燈会」延藤安弘先生 於 熊本まちなみ工房 170924 歴史を活かしたまちづくりシンポジウム 於 市役所14Fホール （日本イコモス国内委員会主催／KMTは後援と企画運営協力） 171117-19 全国町並みゼミin名古屋に参加 171215 防災フォーラム 新町古町「歴史的環境の回復」報告
NPO 1	2018平成30年 180519 年次総会2018 NPO第1期活動報告 於 P.S.オランジュリ	180127 新町古町復興イベント 「おでんを食べて語り継ぐ on the 明八橋」 180316 第8回けんちく寿「旧熊本貯金支局」 （実行委員会に協力） 180901 三角再発見ツアー
NPO 2	2019平成31年 190518 年次総会2018 NPO第2期活動報告 於 住友銀行旧熊本支店社屋	190118 Phase2契約 （PSオランジュリ、清永本店支援） 2019 3月「2016年熊本地震日本イコモス報告書」 文化財の被害状況と復旧・復興への提言 執筆協力

熊本まちなみトラストが取組んだ主要プロジェクト（NPO設立以前 1997-2016）

⑨ 旧貯金支所の活用保存研究



旧貯金支所の保存活用に関する取組みは2008年、若手建築家グループとの展覧会開会の共催から始まった。分離派建築運動の旗手であった山田守設計で1936（昭和11）年に建造された名建築である。2012年に解体が報じられ「活かす会」が設立されると部会を設置して対応した。同じく山田守設計の旧逓信病院の解体も近まりDOCOMOMO等の思いを同じくする団体と協調しながらシンポジウムや見学会の開催、新聞への投稿などのキャンペーンを展開したが、旧貯金支局は2017年、旧逓信病院は2018年に解体された。



旧貯金支局（最終：熊本市花畑別館）1936-2017



旧逓信病院（最終：くまもと森都総合病院）1955-2017

9.29-30 全国まちづくり会議2012in神戸にパネル出席 (旧神戸生糸検査所)

11.24-25 文化経済学会<日本>研究大会熊本大会 (熊本大学本荘キャンパス) (本会共催事業)

12.01 第3回けんちく寿プロジェクト「旧熊本逓信病院」 (本会后援事業)

2.5 富重写真所特別委員会発足

5.13 同上委員会④

10.05-06 全国まちづくり会議2012 in長岡にパネル出席

12.07 第4回けんちく寿プロジェクト「九州学院講堂」

11.16 富重写真所シンポジウム／熊本学園大学高橋記念ホール

2.02-11 富重写真所展覧会／城彩苑 (五高記念館に協力)

2.27-3.31 富重写真所展覧会／熊本大学五高記念館 (五高記念館に協力)

9.27 シンポジウム『熊本の近代と富重利平のまなざし』主催：熊本学園大学

5.10 第5回けんちく寿「熊本県伝統工芸館」

10.03-04 全国まちづくり会議2012 in東京にパネル出席

160109 第6回けんちく寿プロジェクト (協力)「八代市立未来の森ミュージアム」

161112 被災文化遺産所有者等連絡協議会設立総会in P.S.オランジュリ

↓ 毎週幹事会開催

↓ 2017.8月～清永本店部会へ移行

3.14 上熊本新駅舎の開業と旧駅舎の保存10周年を祝う会 (「活かす会」に参加)

4.12 上熊本駅東口駅前広場に設置する公衆トイレの提案と要望 (「活かす会」に参加)

151220 花畑別館を残して・・・市民シンポジウム (協力)

161023 第2回花畑町別館シンポジウム (共催)

170209 アレックス・カー講演会 in P.S.オランジュリ

170220 熊本市議会で請願

170418 被災協 第6回幹事会に県 (文化課)、市 (文化振興課) 参加

文化財基金からの支援制度創設の説明

6月 森本機具材料店 解体

7月 鈴木邸 (旧中村小児科医院) 解体

2017.8月～

3月 安田ふとん店 解体

180316 テナントミックス事業最終会議

180414 被災協シンポ&交流会「デザインコード」

180821 熊本市歴史まちづくり協議会①

181002 歴まち語る会 (古町地区) ①

181024 歴まち語る会 (古町地区) ②

181116 後藤商店焼失

190123 熊本市歴史まちづくり協議会②

171004 三井住友銀行熊本支店社屋保存活用連絡協議会第1回会合 於 国際交流会館

171126 三井住友銀行熊本支店社屋の保存活用を考えるフォーラム 於 P.S.オランジュリ

2017.10月～

180309 清永本店設計チーム調査開始

180324/31 清永本店おかたづけワークショップ

181218 寄付金贈呈式

181221 社屋買取カーリーノ本社を訪問

190124 社屋見学会

3月 社屋活用に向け行政担当課と協議

熊本市花畑町別館を活かす会を支援

× 解体

被災文化遺産所有者等連絡協議会

⑧ ⑨ ⑥ ⑩

富重写真所

旧貯金支店の活用保存研究

J.R.上熊本駅舎の活用保存研究

復旧支援

清永本店部会

住友支店部会

熊本まちなみトラストが取組んだ主要プロジェクト（NPO設立以前 1997-2016）

⑨ 富重写真所の研究とプレゼンテーション

明治3（1870）年に熊本市で写真所を開業した富重利平の偉業は、熊本の明治維新とその後の近代化の足跡を検証するために欠かせない一次資料となっている。また、4代目の富重清治氏は熊本まちなみトラストの前身古町研究会の会員であり、活動を共にした。

富重写真所の文化的価値は、所蔵する写真の原板、機材、スタジオなどの複合した文化財であり、被写体は、西南戦争で焼失する以前の熊本城をはじめとする公共建築物、肖像写真、風俗写真と多岐にわたる。

熊本まちなみトラストは、熊本大学五高記念館、熊本学園大学等と共同で写真展やシンポジウムの企画開催を行ってきた。

坪井川から見た富重写真所
明治期の写真スタジオの遺構として貴重
2006年 国の登録有形文化財に登録

昭和初期の映画館（富重写真所所蔵）

写真機材（富重写真所所蔵）

⑧ 新町古町復興支援

日本イコモス国内委員会との 共同事業

2016 年 4 月熊本地震から 1 週間も経たない同月 25 日には日本イコモス国内委員会事務局長が来熊され熊本市等関係機関を巡回し、調査の準備が行われた。調査団による調査は、5 月 3 日～7 日に 18 人の専門家によって熊本県内各地の文化財の被災状況の調査が行われ、5 月 12 日には緊急アピール文を国内および世界に向けて発信された。熊本地震に関する被害状況と復興に関しては、その後英語版を含め出版が続いている。

同年 7 月 30 日にはフォーラム、2017 年 6 月 18 日には熊本市長を招いてシンポジウムが開催されているが、熊本まちなみトラストは、現地事務局として企画運営に携わった。



平成28年熊本地震
被災歴史的建造物保全フォーラム

文化遺産の復興と継承

2016 年 5 月 3 日熊本調査
この日から 17 日間日本イコモス国内委員会調査団によって県内各地の被災文化財の調査が行われた

2016 年 6 月 26 日 09:00～14:30 日 熊本市庁大会議室 11 階 7 号 1173 号室
30 (土)

事前申込額 (定員 200 名) 申込締切 7/27 (日) 熊本市、関係機関

⑧ 新町古町復興支援

現地事務所の開設と常駐

2016 年 4 月 14 日・16 日、震度 6 弱、6 強の 2 度の震災を受けた直後の 4 月 20 日、予定通り開催した熊本まちなみトラストの例会には 6 人が参集した。当面は被災した自宅や仕事場の復旧を主としながらも、尋常でない状況への対応が必要であることを確認して散会した。

新町古町地区の歴史的建造物が全壊壊を含み激しく被災していることが明らかになるにつれ、現地事務所を開設し常駐しながら被災文化遺産の所有者に寄り添える体制を整えることが急務と思われた。

同年 6 月 18 日の年次総会での議決を経て、被災して営業できなくなった季節家カフェの跡を使って常駐型の現地事務所を開設した。



2016 年 6 月末～9 月末の 3 ヶ月
季節家カフェの跡を利用して現地事務所
を開設した

2016 年 6 月 18 日 総会も現地事務所で開催

出席者	出席者	出席者	出席者
14 (日)	熊本市長	21 (日)	熊本市長
15 (日)	熊本市長	22 (日)	熊本市長
16 (日)	熊本市長	23 (日)	熊本市長
17 (日)	熊本市長	24 (日)	熊本市長
18 (日)	熊本市長	25 (日)	熊本市長
19 (日)	熊本市長	26 (日)	熊本市長
20 (日)	熊本市長	27 (日)	熊本市長

⑧ 新町古町復興支援

被災文化遺産の所有者と運営支援

被災文化遺産所有者等連絡協議会

被災した文化遺産の所有者の連絡協議会が必要、という着想は日本イコモス国内委員会との共同作業から得ていた。一方では、被災した文化遺産は未指定であるために自力で復旧再建しなければならず、特別な補助金が無ければ再建は困難であるという切羽詰った状況があり、熊本まちなみトラストが事務局となって協議会が設立された。



2016 年 11 月 12 日 被災文化遺産所有者等連絡協議会 設立総会



2017 年 6 月 5 日 熊本市長を訪問

⑪ 新町古町復興支援

清永本店部会の継続

被災文化遺産所有者等連絡協議会の幹事会は、主として会場を被災した清永本店の 2 階で開催された。4 月 18 日幹事会では創設された被災文化財等復旧復興事業補助金の制度について概要説明を受け、さらなる支援策が必要な大規模被害の数軒に関して県・市への陳情を続けた後、8 月末から清永本店に的を絞った会議（清永本店部会）に移行した。



2017 年 4 月 4 日
被災文化遺産所有者等連絡協議会
幹事会
被災した清永本店 2 階
同年 8 月 8 日第 22 回幹事会の後
8 月末から
清永本店に的を絞った部会に移行



2017 年 12 月 30 日 復旧工事現場
2017 年 9 月復旧工事着工後は
毎週火曜日の午前中に現場打合せ
を行い、
その日の夜に清永家を交えて
工事の報告と事業全体の課題等
を話し合う、清永本店部会を継続して
いる

⑧ 新町古町復興支援

WMF ワールド・モノメント財団 とのパートナーシップ契約

2016 年 5 月の日本イコモス国内委員会の調査団の一員であったワールド・モノメント財団の日本代表から熊本まちなみトラストが同財団の支援を受けるよう強く勧められた。

2016 年 11 月には同財団の構成員であるフリーマン財団会長の訪問を受け、同財団への支援申請が本格化し、翌 2017 年 7 月に同財団と熊本まちなみトラストがパートナーシップ契約を結び、唐人町の 5 軒の被災文化遺産への復旧工事支援が確定した。



2016 年 11 月 1 日 フリーマン財団会長との懇談会

2017 年 8 月 3 日
WMF との契約 記者発表

⑧ 新町古町復興支援

復興イベントの開催

シンポジウムやフォーラムのほかに、新町古町の復旧復興の現状を確認し次のステップへの英気を養うコミュニティ応援イベントとしては、WMF の支援を受けて実施した「明八橋の上でおでんを食べて城下町の未来を語ろう」というイベントが挙げられる。当日は地元小学校の小学生を運れたお母さんを中心に、高校生、若者、高齢者など 200 人以上の参加を得た。



2018 年 1 月 27 日
明八橋の上で
おでんを食べて
城下町の未来を語ろう

住友支店部会 保存活用協議会

旧住友銀行熊本支店（1934（昭和 9）年建造）は、熊本地震での被害はなかったが、2017 年 8 月支店機能の移転が発表された。そこで、熊本まちなみトラストは、空き家化した社屋が取り壊されないように関係機関に働きかける事を目的として地元自治協議会などと共に連絡協議会を立ち上げた（同年 10 月 30 日）。その後同年末まで地元紙への投稿、フォーラムの開催等同社屋の文化的価値をアピールすると共に、銀行に対して保存活用をお願いを申し入れた。



2017 年 11 月 26 日
城下町を盛り盛りフォーラム
三井住友銀行熊本支店の保存活用
を考える

2017 年 12 月 19 日
銀行本店との打合せ

協議会は 2018 年 11 月までに 12 回開催され、その間には銀行との懇談等も行われた。同年 12 月初め保存活用を前提にした買い取りが見つかったことを銀行から明らかにされた。

協議会では早速買取られたカーリーノに感謝の意を伝えるために訪問し見学会を申し入れた。今後再利用していくためには多くの難関が予想されるが、熊本まちなみトラストは、寄り添いながら相談に対応していく予定である。



1934（昭和 9）年建造の
旧住友銀行熊本支店社屋の
正面アーチとギリシャ様式の柱頭

2019 年 1 月 24 日見学会

20年間の活動と成果

PSオランジュリを初めとする近代化遺産の保存活用

ペロタクシーや河原町など若者文化の育成

新町古町の町屋調査と町屋体験等の町屋利活用



活動から得られた知見

近代化遺産はコミュニティの絆となることがわかった

近代化遺産は観光資源になることがわかった

→KMTの活動は「リノベーション（再生）」という世界的潮流である都市の新陳代謝の手法と一致している

←KMTの活動は世代を超えて共感することができた

←KMTの活動は国際的にも評価された
(WMFからの支援)



新規流入住民を巻き込み

伴走者として

活動を拡大していくことが大切だ！

平成28年熊本地震

熊本城は残っても
城下町が
消滅するかもしれない

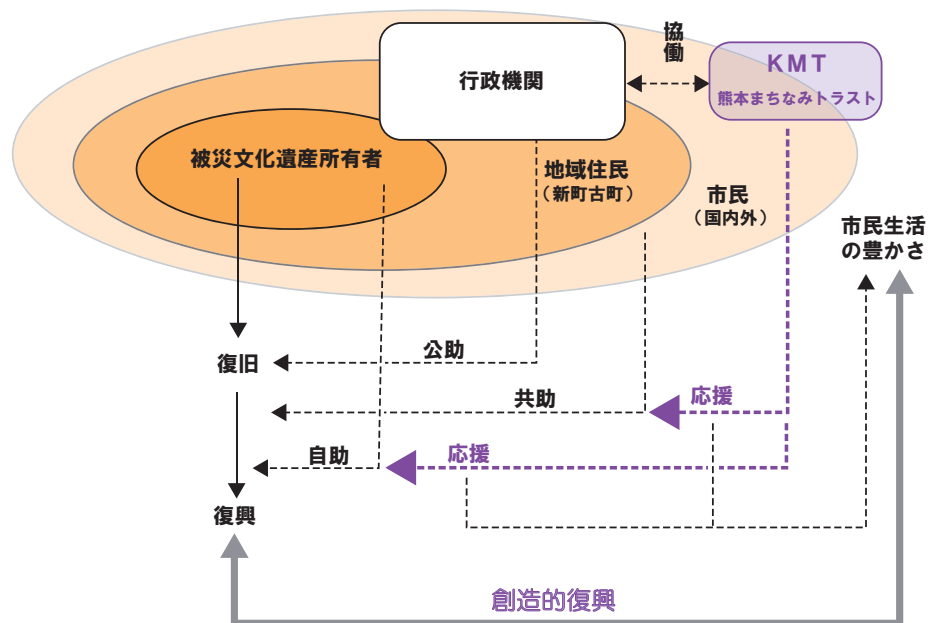
という危機感



NPO法人化

城下町の
創造的復興

現在位置



【未来に向けた活動目標】

新たな転入者や若い世代は「街の記憶」を共有することが難しい。一方、新町古町をはじめとする歴史ある街には伝統を活かす新旧の事業者が息づき、まちの景観と共に未来のコミュニティにとって魅力的な要素となっている。そのような環境に熊本まちなみトラストの活動が加わることで新旧住民の「記憶の継承」が促進され、地域住民のコミュニティの絆が強まり、地域資源の観光客への訴求力も強まる。そのような好循環を生み出し、市民意識がリノベーション（再生）され新しい価値を創出し続けることを目標とする。

都市や地域は人間社会と同じように赤ん坊（新しい建物）から高齢者（古い建物）までの各世代が尊重されイキイキとした生活が営まれることが望まれる。熊本まちなみトラストが関わる近代の歴史的文化遺産は、少し昔（半過去）の文化遺産であり現在の生活環境に至る経路がたどりやすいので、都市や地域の「記憶の継承」を助けることに大いに役に立つ。熊本地震からの復旧・復興の経験は、個々の近代化遺産の持つファミリー・ヒストリーが集まって地域のヒストリーが紡がれていることの再発見であった。その経験を熊本まちなみトラストの未来の活動に活かしたい。